

の判定が難しいこと」も解決されるであろう。

わたしたちは、問題点②、③の原因をこのようにつきとめることができた。次には、当然、「授業研究の研究主題をどう選ぶか」が問題になった。しかし、これに対しては、すでに述べた「適格主題を選ぶこと」で良いとし、それよりも、「適格主題を選んだとして、その解決策を、具体的にどう学習指導案の中に位置づけたら、結果として、より実りのある事後研究会のまとめができるか」について研究すべきであるとして、次の研究副主題と仮説とを設定した。

(研究副主題)

### 2-1-2方式の授業研究

(仮説)

「2-1-2方式の授業研究」において、授業観察の観点、方法を明確にした学習指導案を作成すれば、事後研究会でのまとめが焦点化され、評価が適切になされるであろう。

このように研究副主題をしぼり、この仮説を検証するために、自由な発想のもとに、従来の形式にとらわれない、新しい形の学習指導案づくりを目指すことにした。

(7) 新しい学習指導案づくりを目指して

「2-1-2方式の授業研究」における学習指導案は、

- ① 「本時の目標の達成」に関しては、本時の具体的な目標が、過程の中に明確に位置づけられ、それらが観察の観点として明示されている。
- ② 「研究主題の解決」に関しては、研究のねらいや研究主題の解決策が明示されており、「研究主題の解決」へのせまり方を、「研究主題の解決策を、本時の内容に合った形に具体化して、過程の中に位置づけること」としてとらえ、これらの具体化された解決策が、観察の観点として明示されている。

③ ①、②の観点に対する評価の方法が明示されている。

④ 観察の記録ができ、また、学習指導案の修正すべき点などに関する意見も記入できる。

以上の内容を盛りこんだものにした。

とすれば、研究主題が適格なものであることを前提として、①～④の内容を盛りこんだ研究授業のための学習指導案は、どのような形式のものが、より有効適切なものであるかが問題になる。

仮説を生かした、より有効適切な研究授業用の学習指導案を生み出すこと、これがわたしたちの課題であった。

(8) 研究計画

- 6月～8月

仮説を生かした学習指導案の研究

- 9月～11月

研究した学習指導案による授業研究の実施。

授業研究は、小学校社会、算数、理科、音楽、体育の五教科で、各2回ほど実施する。仮説の検証は、事後研究会での成果による。

- 12月

紀要原稿執筆開始

- 1月19日

紀要原稿完了。

- 3月

紀要完成

(9) 研究委員会の研究経過

- 第1回研究委員会(第1回研究部会)

研究の趣旨の説明 (54.5.31教育センター)

- 第2回研究委員会(全体会)

研究の反省 (55.2.28教育センター)

① 社会科研究部会

- 第2回研究部会 (54.7.31教育センター)

研究主題の検討

- 第3回研究部会 (54.8.23教育センター)

授業研究の指導案の作成

- 第4回研究部会 (54.10.2教育センター)

授業研究の指導案の作成